

《担当者名》教授 / 柴山 良彦

教授 / 小林 道也 准教授 / 小田 雅子 准教授 / 伊藤 邦彦 准教授 / 中川 勉 講師 / 久保 儀忠

【概要】

生物薬剤学、製剤学、薬物動態学に関する最近の欧文誌論文等を抄読し、英語読解力・論文作成能力を養うとともに、さらに薬剤学特論の講義内容について基礎的理解を深めることを目的とする。

【学修目標】

- ・医薬品の吸収と臓器移行を制御するトランスポーターに関する最新の文献を抄読し、医薬品の構造とトランスポーターの関わり合いについて説明できる。
- ・最近の製剤開発で利用されている添加物や製剤技術に関する文献を系統的に抄読し、創薬におけるDDSや薬物放出制御技術の重要性を説明できる。
- ・薬物動態学的相互作用に関する最近の文献を抄読し、臨床上の問題点とその回避に向けた対処法について説明できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1) 5	薬物の薬物動態におけるトランスポーターの役割	<ul style="list-style-type: none"> ・消化管吸収に関与するトランスポーターの機能について説明できる。 ・血液脳関門のトランスポーターの機能について説明できる。 ・薬物の体内動態におけるトランスポーターの役割について説明できる。 	小田 雅子
6) 10	製剤開発（DDS、放出制御等）と製剤添加物	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な剤形で用いられる製剤添加物について、その種類ならび添加物の特性について説明できる。 ・製剤化技術としてのドラッグデリバリーシステムについて、その目的、概略を説明できる。 	柴山 良彦 中川 勉 久保 儀忠
11) 15	薬物動態学的相互作用と薬物動態変動要因	<ul style="list-style-type: none"> ・薬物動態学的相互作用の実例を列挙し、説明できる。 ・薬物動態における様々な変動要因について列挙し、説明できる。 	小林 道也 伊藤 邦彦

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

受講態度（30％）と課題レポート（70％）で評価する。

【教科書】

随時プリントを配布する。

【学修の準備】

各項目に関連する生物薬剤学、製剤学、薬物送達学、薬物動態学などを良く理解しておくこと。

【実務経験】

柴山良彦（薬剤師）、小林道也（薬剤師）、小田雅子（薬剤師）、中川勉（薬剤師）、久保儀忠（薬剤師）

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関での薬剤師としての実務経験を活かし、実践的な教育を行う。